

第41回

JULY 14-15, 2011 The 41st Symposium on Reliability and Maintainability

日科技連

信頼性・保全性シンポジウム



参加者募集のご案内

2011年

7月14日(木)~15日(金)

最新情報は、インターネットでご覧ください!!

41信頼性シンポジウム

検索

会場: 日本教育会館 (東京・千代田区一ツ橋)

テーマ

イノベーションと信頼性 — 国際的協調と分業 —

基調講演

イノベーションと信頼性 — 国際的協調と分業 —

木村 忠正 氏 電気通信大学 名誉教授



特別講演

技術が拓く未来社会 小惑星探査機「はやぶさ」が もたらしたもの

久保田 孝 氏

宇宙航空研究開発機構 教授 宇宙科学研究所 宇宙探査工学研究系
月惑星探査グループ 特有バスグループ長
東京大学 教授 大学院工学系研究科



特別セッション

次世代信頼性安全性情報システム RSIS (Reliability and Safety Information System)

コマツ、富士ゼロックス、東芝、電気通信大学 による特別セッション

品質管理学・信頼性工学・安全性工学と高度情報通信技術の「知」を融合

RSISに基づく高品質・高信頼性そして安全なモノづくりのための標準プロセスを創生!

※詳しくは中面をご覧ください。

チュートリアル発表

信頼性技術で支えるコストと製品安全

故障の予兆解析と信頼性・安全性の造り込み

日本信頼性学会・故障物性研究会

※詳しくは中面をご覧ください。

ショートプレゼンテーション&ディスカッション

信頼性管理で実現するコストと製品安全

重要性を増す源流志向の管理(部品メーカーとの連携)

日本信頼性学会・故障物性研究会

※詳しくは中面をご覧ください。

主催: 財団法人日本科学技術連盟 後援: 日本信頼性学会

協賛: 一般社団法人情報処理学会 社団法人電子情報通信学会 社団法人電気学会 社団法人日本品質管理学会 一般社団法人日本機械学会
社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会 社団法人計測自動制御学会 社団法人日本航空宇宙学会 社団法人日本航空技術協会
社団法人日本自動車部品工業会 財団法人日本電子部品信頼性センター 社団法人自動車技術会 社団法人応用物理学会
IEEE Reliability Society Japan Chapter LSIテスト学会 独立行政法人製品評価技術基盤機構(依頼中)



第41回 JULY 14-15, 2011 The 41st Symposium on Reliability and Maintainability

信頼性・保全性シンポジウム



イノベーションと信頼性

— 国際的協調と分業 —

日程 2011年7月14日(木)~15日(金)
受付 9:00~

会場 日本教育会館(東京・千代田区一ツ橋)

発表時間 持ち時間は1件につき30分(発表20分、質疑応答10分)
発表 一般発表:42件 / チュートリアル発表:5件 / 特別発表:4件 / 合計:51件

(敬称略)

日	時間	A会場 第一会議室 (総合司会: 門田 靖 株式会社リコー 品質本部 QAセンター 製品安全技術室 室長・組織委員会副委員長)
7月14日	9:30~9:35	主催者挨拶 財団法人科学技術連盟 専務理事 三田 征史
	9:35~10:20	【基調講演】 イノベーションと信頼性 — 国際的協調と分業 — 木村 忠正 電気通信大学 名誉教授・組織委員会委員長
	10:20~10:45	2010年度(第40回)R&MS推奨論文賞・特別賞 表彰式 賞状・副賞の授与: 木村 忠正 電気通信大学 名誉教授・組織委員会委員長 選考理由について: 鈴木 和幸 電気通信大学大学院 教授・組織委員会副委員長・報文小委員会委員長
	10:45~10:55	休憩
	10:55~12:25	【特別講演】 技術が拓く未来社会 小惑星探査機「はやぶさ」がもたらしたもの 久保田 孝 宇宙航空研究開発機構 教授 宇宙科学研究所 宇宙探査工学研究系 / 月惑星探査グループ 特任バスケープ長 東京大学 教授 大学院工学系研究科
	12:25~12:30	事務連絡 日科技連事務局
	12:30~13:45	昼食休憩

2010年度(第40回)R&MS推奨論文賞・特別賞 表彰報文
表彰報文:発表報文の中から参加者の投票をもとに選出されます。
報文は、①創意性、②実用性、③完結性、④利用価値、⑤普遍性、⑥発表方法、⑦発表データの利用率の各項目で評価されます。
なお、2010年度を受賞報文は次のとおりです(奨励報文賞の該当はありませんでした)。

【推奨論文賞】(発表セッション順・所属は受賞時のものです)
 ・スプライン用高潤滑グリースの開発
 ○分根 聖司¹⁾、池島 昌三¹⁾、安藤 和広¹⁾、坂本 清美²⁾ : 1)㈩デンソー、2)JX日鉱日石エネルギー㈱
 ・ソフトウェアに対する安全度水準計算の一手法
 ○藤原 隆次¹⁾、木村 光宏²⁾、佐藤 吉信³⁾、山田 茂⁴⁾ : 1)ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ㈱、2)法政大学、3)東京海洋大学、4)鳥取大学
 ・遠隔監視システムを用いたガスタービンプラントの異常診断
 ○三上 尚高 三菱重工業㈱

【特別賞】(発表セッション順・所属は受賞時のものです)
 ・高信頼製品設計への戦略 ○長谷部 光雄 のっぽ技術開発研究所
 ・チュートリアル発表: 高信頼性時代に向けた信頼性技術 ○土屋 英晴、牧野 芳樹、平山 良彦、高森 圭、本山 晃 日本信頼性学会・故障物性研究会

発表時間	A会場(8階 801・802号室)	司会者(補佐)	発表時間	B会場(8階 803・804号室)	司会者(補佐)
Session	【Session1】半導体の故障解析と信頼性評価		Session	【Session3】機械の評価と設計	
13:45~14:15	SCS(Stacked Chip SoC)のCoC構造チップ取り出し技術の開発 住吉 貴充 ㈱東芝 セミコンダクター社	佐々木 健二 (㈱)	13:45~14:15	電気自動車パワートレインの耐久性評価手法の開発 堀江 秀嗣 日産自動車㈱	田中 克幸 (㈱デンソー)
14:15~14:45	レーザテラヘルツエミッション顕微鏡による無バIASLSI故障解析 松本 徹 浜松ホトニクス㈱		14:15~14:45	EV充電ポートにおける市場要件の把握と強度要件への落とし込み 酒井 優士 日産自動車㈱	
14:45~15:15	加速電極による準静電界を用いた故障解析技術 伊藤 誠吾 東京大学		14:45~15:15	6価クロム廃止をねらいとした3価クロムへの代替技術研究・開発 花田 洋一郎 ㈱小松製作所	
15:15~15:45	腐食的要因に起因する半導体耐湿性問題と新試験方法適用によるプラスチックパッケージの超高信頼化 田中 政樹 ルネサス エレクトロニクス㈱	(手塚)	15:15~15:45	ロケットターボポンプ用タービン設計へのQFDの適用 瀧田 純也 ㈱宇宙航空研究開発機構	(岡本)
15:45~16:15	休憩				
Session	【Session2】電子部品の信頼性評価	司会者(補佐)	Session	【Session4】信頼性設計	司会者(補佐)
16:15~16:45	実装後の基板繰り返し曲げ試験方法の違いによる寿命の差異と相関性 尾崎 晋佑 ソニー㈱	中條 敏 (㈱東芝)	16:15~16:45	クイックデザインレビューによる不具合不満の未然防止 大島 恵 日産自動車㈱	佐藤 廣幸 (㈱アイシン精機)
16:45~17:15	液晶表示装置の故障と信頼性試験 今原 和光 京セラ㈱		16:45~17:15	品質工学を活用した品質ばらつき抑制設計手法の開発 奈良 敢也 日産自動車㈱	
17:15~17:45	セラミックパッケージ白色LEDの放熱特性と信頼性比較 Byunjin Ma KETI(韓国信頼性評価研究センター)	(門田)	17:15~17:45	ハードウェアの信頼性評価支援方式 大森 康宏 三菱電機㈱	(田中(寛))

発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)	発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)
Session	【Session5】最新信頼性・安全性解析(展示企業の発表)		Session	【Session6】品質工学の活用	
13:45~14:15	最新のRelx2011信頼性工学ソリューションの紹介 原 良孝 テックサポートマネジメント㈱	井原 惇行 楠本化成㈱	13:45~14:15	MTシステムによるパワーモジュールの故障確率推定方法 石田 雄二 ㈱安川電機	藤本 良一 (㈱IHI)
14:15~14:45	HALT最新情報2011 川上 雅司 ㈱東陽テクニカ		14:15~14:45	信頼性テストのパフォーマンス向上に関する試み(2) 長谷部 光雄 のっぽ技術開発研究所	
14:45~15:15	信頼性設計におけるHALTの活用事例 小林 吉一 楠本化成㈱		14:45~15:15	品質工学を利用した宇宙機器用軸受の保持器最適設計に関する研究 間庭 和聡 ㈱宇宙航空研究開発機構	(岩間)
15:15~15:45	TEM/STEM-EDSにおけるX線検出器のツイン化 押川 浩之 ㈱トプコンテクノハウス	(藤本(直))			

日	発表時間	A会場(8階 801・802号室)	司会者(補佐)	発表時間	B会場(8階 803・804号室)	司会者(補佐)
7月15日	Session	【Session7】材料の評価と解析		Session	【Session8】信頼性解析	
	9:30~10:00	SEMにおける自動連続取込機能を用いたウィスカ解析への応用 振木 昌成 ㈱日立ハイテクノロジーズ	二川 大 (大阪大学)	9:30~10:00	二変量寿命データの解析とその活用 棚田 大輔 電気通信大学	宮村 鐵夫 中央大学
	10:00~10:30	JEDECに準拠した熱過渡特性解析法による熱抵抗評価 清水 互 沖エンジニアリング㈱	清 (門田)	10:00~10:30	計量採取試験結果に基づく部品の検査と余寿命推定 松岡 敏成 三菱電機㈱	
	10:30~11:00	高信頼性接合可能な膜回路基板の開発と実用化 小川 文輔 NEC東芝スペースシステム㈱		10:30~11:00	対数正規分布に基づく加速寿命試験のD最適試験計画に関する考察 熊崎 千晴 電気通信大学	
	11:00~11:30	少量でも精度良く劣化評価できるナイロン分子量測定方法の確立 長嶋 誠 アイシン精機㈱		11:00~11:30	確率過程モデリングとベイズ推定法に基づく劣化現象の信頼性解析 貝瀬 徹 兵庫県立大学大学院	(石田)
	11:30~12:30	昼食休憩				

発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)	発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)
Session	【Session10】ヒューマンファクター		Session	【Session11】安全性とリスク解析	
9:30~10:00	ダブルチェックにおける各種確認手法のエラー発見効果に関する実験的検討 稲葉 緑 電気通信大学大学院	鎌田 信也 三菱重工業㈱	12:30~12:35	逆ETA法によるリスク解析技法の汎用化 和田 浩 関西経営管理協会	尾畑 義雄 (関西電力)
10:00~10:30	安全保証と危険回避の使い分けに関する一考察 — 使用説明書と警告表示のあり方 — 田中 健次 電気通信大学大学院		12:35~12:55	機能安全の基本規格IEC 61508と自動車分野規格ISO 26262との関係 佐藤 吉信 東京海洋大学	
10:30~11:00	道路交通のエラー水準と交通事故の過剰リスク 生熊 克己 明治大学		12:55~13:15	安全の社会的受容可能リスクレベルを把握する方法の検討 黒崎 英二 ㈱リコー	
11:00~11:30	ヒューマンエラーによる事故の低減に向けた設計支援データベースの構築とその活用 山崎 弘貴 電気通信大学	(布谷)	13:15~13:35	R-Map手法を用いたリスクアセスメントとリコールの関係 酒井 健一 ㈱製品評価技術基盤機構	(田中(健))

日	発表時間	A会場(8階 801・802号室)	司会者(補佐)	発表時間	B会場(8階 803・804号室)	司会者(補佐)
7月15日	Session	【チュートリアル発表】信頼性技術で支えるコストと製品安全		Session	【特別Session】次世代信頼性安全性情報システムRSIS	
	12:30~14:30	故障の予兆解析と信頼性・安全性の造り込み ●日本信頼性学会・故障物性研究会 司会: 井原 惇行 楠本化成㈱ ①故障物性研究会の紹介—最近1年間の活動成果と課題— 土屋 英晴 アンデン㈱ ②信頼性・安全問題の実態と解析技術 本山 晃 パナソニック電工解析センター㈱ ③電子部品・実装における壊れ方の可視化 井原 惇行 楠本化成㈱ ④電解コンデンサ製造の日本への回帰 牧野 芳樹 ルビコン㈱ ⑤Liイオン2次電池の事故と予防対策 平山 良彦 セイコーインスツル㈱	二川 大 (大阪大学)	12:30~12:35	趣旨説明 コーディネーター: 鈴木 和幸 電気通信大学大学院	宮村 鐵夫 中央大学
	14:30~15:00	休憩		12:35~12:55	KOMTRAXの概要と活用 土井下 健治 ㈱小松製作所	
	15:00~16:30	【ショートプレゼンテーション&ディスカッション】信頼性管理で実現するコストと製品安全 ●重要性を増す源流志向の管理(部品メーカーとの連携) ●日本信頼性学会・故障物性研究会 ①活動経緯(価格と信頼性): 土屋 英晴 ②高信頼性が求められる衛星の低コスト化への試み: 三ツ石 ③海外調達への急進と信頼性確保: 小林 ④製品事故に関する情報収集と分析: 井原 ⑤市場故障を防ぐ部品実装工程の管理: 平山 ⑥劣化診断による安全問題の未然防止: 安達 ⑦総合討論 コーディネーター: 土屋 英晴 アンデン㈱、味岡 垣夫 沖エンジニアリング㈱ プレゼンター: 小林 健二 日本電機㈱、三ツ石 進 NEC東芝スペースシステム㈱ 井原 惇行 楠本化成㈱、平山 良彦 セイコーインスツル㈱、安達 健二 ㈱東芝	(門田)	12:55~13:15	TQMSによる稼働情報の積極的活用 高野 昌泰 富士ゼロックス㈱	
				13:15~13:35	PCヘルスマニタリングによる市場における製品監視の高度化 西川 武一郎 ㈱東芝	
				13:35~13:55	次世代信頼性・安全性情報システムRSISに向けたデータ同化による個別リスクコミュニケーションの展開 横山 真弘 電気通信大学大学院	
				13:55~14:30	情報交換・質疑応答	

発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)	発表時間	C会場(7階 707室)	司会者(補佐)
Session	【Session12】保全性と品質管理		Session	【Session9】コンピュータ支援とソフトウェア	
15:00~16:30	工程の自動化と信頼性 遠山 真人、稲葉 信彦 菊水化学工業㈱	岡田 孝雄 宇宙航空研究開発機構	15:00~15:30	ベイジアンネットワークによる複合機故障診断技術 上床 弘毅 富士ゼロックス㈱	佐藤 吉信 東京海洋大学
	接地関連業務の合理化検討について 神長 龍太 関西電力㈱		15:30~16:00	IEC 61508準拠の低頻度作動要求モードに対するソフトウェア安全度水準計算の一手法 藤原 隆次 富士通オリテイ・ラボ㈱	
			16:00~16:30	ソフトウェア開発におけるFMEAの適用可能性検討 夏目 珠規子 ㈱東芝	(宮村)

【併設展示コーナー】
ユーザ、メーカー間の情報交換 最新の信頼性技術情報の収集に最適!
 ・先進企業による、信頼性に関する測定機器、試験装置、解析ソフトの展示
 ・公的機関による実例事故品・パネル・映像による紹介
 ・信頼性・保全性・安全性に関する書籍の展示・販売
 ・信頼性を専門とした学会活動を行う国内唯一、国際的にも数少ない研究者・技術者のため活動団体紹介

【出展会社】
 ① テックサポートマネジメント㈱
 ② ㈱東陽テクニカ
 ③ 楠本化成㈱
 ④ ㈱トプコンテクノハウス
 ⑤ ㈱製品評価技術基盤機構(NITE)
 ⑥ ㈱日科技連出版社
 ⑦ 日本信頼性学会

【世話人】
 楠本化成(株) 井原 惇行

・出展企業による、最新信頼性・安全性解析の発表を行います(セッション5)。
 ・頻発している重大製品事故の状況を鑑み、製品評価技術基盤機構(NITE)が日科技連が異業種企業と協同で開発した「R-Map手法」を実践的に活用したリスクアセスメントとリコールの関係について発表を行います(セッション11)。

※:プログラムの内容は変更になる場合がございます。

次世代信頼性安全性情報システム RSIS (Reliability and Safety Information System)

趣旨

本特別セッションは品質管理学・信頼性工学・安全性工学と高度情報通信技術の知を融合した次世代信頼性安全性情報システムRSIS (Reliability and Safety Information System) を研究・開発し、RSISに基づく高品質・高信頼性そして安全なモノづくりのための標準プロセスを創生することにより、

- ① 顧客への個別対応リスクコミュニケーションを通じた国民の安心安全
- ② 高精度シミュレーションに基づく高品質・高信頼性新製品開発を通じたわが国産業界の国際競争力強化
- ③ 信頼性工学ならびに安全性工学の情報化時代に即した刷新

などの研究テーマの体系的発信を通じて、世界の産学技術とその理論をリードすることを目的としています。このための現時点までの成果を発表し、広く情報交換と意見交換を行います。

コーディネーター・司会: 鈴木 和幸 氏 電気通信大学大学院 教授



●趣旨説明: 12:30~12:35

<p>1 12:35~12:55</p> <p>KOMTRAXの概要と活用</p> <p>土井下 健治 氏 <small>(株)小松製作所 開発本部 商品企画室 ICTグループ 主査</small></p>	<p>2 12:55~13:15</p> <p>TQMSによる稼働情報の積極的活用</p> <p>高野 昌泰 氏 <small>富士ゼロックス(株) 品質本部 品質革新部 品質情報管理グループ長</small></p>
<p>3 13:15~13:35</p> <p>PCヘルスマonitoringによる市場における製品監視の高度化</p> <p>西川 武一郎 氏 <small>(株)東芝 研究開発センター システム技術ラボラトリー 研究主幹</small></p>	<p>4 13:35~13:55</p> <p>次世代信頼性・安全性情報システムRSISに向けたデータ同化による個別リスクコミュニケーションの展開</p> <p>横山 真弘 氏 <small>電気通信大学大学院 情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 後期博士課程</small></p>
<p>5 13:55~14:30</p> <p>情報交換・質疑応答</p>	

チュートリアル発表・ショートプレゼンテーション&ディスカッション

7月15日 12:30~16:30 / A会場

日本信頼性学会「故障物性研究会」は発足以来、現場で発生する電子部品や電子機器の故障問題を議論することで、試験・解析技術の高度化や電子機器の信頼性向上に貢献してきました。昨年の本シンポジウムでの研究成果発表に続き、本年は「信頼性技術」と「信頼性管理」の両面から1年間の活動成果報告を行い、新たな課題を抽出します。

- 【ねらい】①信頼性のビジネス的価値を低コストや製品安全を実現する有力な技術という視点から掘り下げる。
 ②いかに安く良い部品を調達するか。いかに安全に壊れるようにするか。いかに品質コストの最少化を実現するか。

第I部: チュートリアル発表

信頼性技術で支えるコストと製品安全 故障の予兆解析と信頼性・安全性の造り込み

部品メーカーやセットメーカーでの信頼性・安全性の造り込み、信頼性・安全問題を防止する予兆解析技術について、その考え方と進め方、成果、課題を具体事例5件で紹介いたします。
(敬称略)

司会: 井原 惇行 楠本化成(株)

1	故障物性研究会の紹介 —最近1年間の活動成果と課題— 土屋 英晴 アンデン(株) 岡崎工場 第2品質保証部 部長
2	信頼性・安全問題の実態と解析技術 本山 晃 パナソニック電工解析センター(株) 基盤解析事業部 主幹
3	電子部品・実装における壊れ方の可視化 井原 惇行 楠本化成(株) エタック事業部 特別顧問
4	電解コンデンサ製造の日本への回帰 牧野 芳樹 ルビコン(株) 品質保証センター センター長
5	Liイオン2次電池の事故と予防対策 平山 良彦 セイコーインスツル(株) 匠モジュール事業部TM品質保証グループ

第II部: ショートプレゼンテーション&ディスカッション

信頼性管理で実現するコストと製品安全 重要性を増す源流志向の管理 (部品メーカーとの連携)

海外調達の急進と信頼性確保・高信頼性が求められる衛星の低コスト化への試み・製品事故に関する情報収集と分析・市場故障を防ぐ部品実装工程の管理・劣化診断による安全問題の未然防止などをキーワードに、議論を通じて今後の課題を整理します。
(敬称略)

コーディネーター: 土屋 英晴 アンデン(株)
 味岡 垣夫 沖エンジニアリング(株)

プレゼンター: 小林 健二 日本電気(株)
 三ッ石 進 NEC東芝スペースシステム(株)
 井原 惇行 楠本化成(株)
 平山 良彦 セイコーインスツル(株)
 安達 健二 (株)東芝

ご参加のおすすめ・基調講演

イノベーションと信頼性 —国際的協調と分業—

木村 忠正 氏

電気通信大学 名誉教授
科学技術振興機構 プログラムオフィサー
信頼性・保全性シンポジウム組織委員会委員長



1971年に開始した当シンポジウムは、いろいろな分野の信頼性・保全性・安全性に携わるエンジニア、マネージャー、研究者の方々にご参加いただき、研究発表、事例発表、討論などを行うとともに、基調講演、特別講演、パネル討論会、チュートリアル発表、展示コーナーなど、多彩な人的交流と情報交換の場を提供することを主眼として開催しており、国内外から高い評価を得ております。

第41回となる信頼性・保全性シンポジウムは、「イノベーションと信頼性 —国際的協調と分業—」というテーマで開催いたします。

21世紀に入り、あらゆる分野でグローバル化の波が押し寄せ、特に、インターネットの普及がそれに拍車をかけています。

各国では、産業競争力強化と環境問題解決に資する科学技術・イノベーション政策強化の動きが活発化しています。我が国においても、第4期科学技術基本計画（2011～2015年度）の策定により、グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションを柱とした政策誘導型の科学技術振興の比重を高めています。

また、欧州においては、我が国以上に政策誘導型、産業界主導型のイノベーション支援による科学技術戦略を進めています。そのような状況の中で、我が国の今後の科学技術と産業の発展においても、国際的な協調と、各国の歴史、思想、文化、環境等に配慮した分業、および、環境との共生を考慮した持続的な産業の発展、その解決に資するイノベーションが求められています。

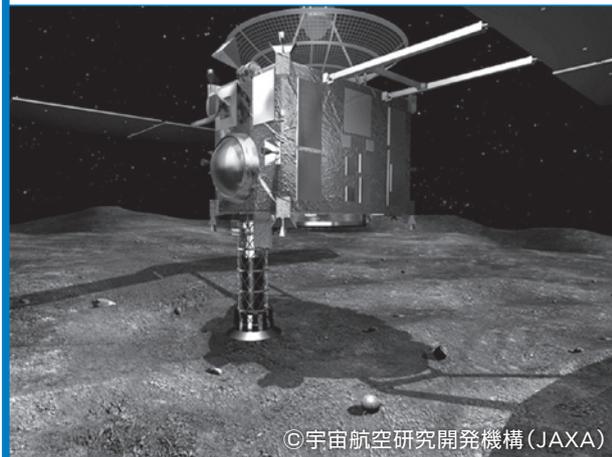
このようなイノベーション推進にあたり、信頼性・保全性の考え方、技術、対策も、これまで以上にグローバル的な視点が必要で、こうした背景の下に今回のシンポジウムのテーマが設定され、企画されました。おかげさまで、報文も多く寄せられておりますので、貴社の信頼性・保全性活動をより一層発展させるためにも、ぜひともご参加くださるようお願いいたします。

特別講演

技術が拓く未来社会 小惑星探査機「はやぶさ」が もたらしたもの

久保田 孝 氏

宇宙航空研究開発機構 教授 宇宙科学研究所 宇宙探査工学研究系
月惑星探査グループ 特有バスグループ長
東京大学 教授 大学院工学系研究科



©宇宙航空研究開発機構(JAXA)

日本中に感動を与えた小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還。

「はやぶさ」プロジェクトの構想から、設計・開発・運用までかわられた中心人物の一人、久保田 孝 氏（宇宙航空研開発機構）をお招きし、「はやぶさ」に用いられた最新技術、未知領域へのチャレンジ、100社を超える企業からなるプロジェクトでの苦心談など、数々の試練をどう克服して、成功に導いていったのかについてご講演いただきます。

詳細・最新情報はHPでご確認ください！

組織委員 (五十音順・敬称略)

委員長

木村 忠正 電気通信大学 名誉教授

副委員長

鈴木 和幸 電気通信大学大学院 教授 情報理工学研究所 総合情報学専攻

門田 靖 (株)リコー リコーテクノロジーセンター 品質本部 QAセンター 製品安全性技術室 室長

委員

井原 惇行 楠本化成(株) エタックス事業部 特別顧問

岡田 孝雄 宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ

連航・安全技術チーム 構造評価技術セクション 主任研究員

岡本 直樹 富士ゼロックス(株) 研究技術開発本部 基盤技術研究所 チーム長

尾畑 義雄 関西電力(株) 企画室 品質管理グループ チーフマネジャー

鎌田 信也 三菱重工業(株) 原子力事業本部 原子力技術部 部長代理

上久保 忠正 (株)日立製作所 品質保証本部 QAセンタ 主任技師

河西 和雄 JSR(株) 製品・品質保証部 部長

佐々木 健二 ソニー(株) 厚木テクノロジーセンター CPDG 半導体事業本部 品質信頼性部門 担当部長

佐藤 廣幸 アイシン精機(株) 知的財産部 部長

佐藤 吉信 東京海洋大学 教授 海洋工学部 海事システム工学科

関 清伸 富士通(株) 品質保証本部 品質保証推進統括部 リーダー

田中 克幸 (株)デンソー 本社 品質管理部 品質監査室 主任部長

田中 健次 電気通信大学 教授 大学院情報システム学研究所 社会情報情報学専攻

手塚 泉 ルネサス エレクトロニクス(株) 品質保証統括部 アナログ&パワー 品質保証部 主管技師

中條 聡 (株)東芝 品質統括本部 品質推進室 品質技術担当 グループ長

二川 清 大阪大学 特任教授 大学院情報科学研究所 情報システム工学専攻

布谷 貞夫 (株)小松製作所 開発本部 主幹

藤本 直伸 三菱電機(株) 鎌倉製作所 宇宙システム部 信頼性技術センター センター長

藤本 良一 (株)IHI 航空宇宙事業本部 技師長

宮村 鐵夫 中央大学 教授 理工学部 経営システム工学科

向殿 政男 明治大学 教授 理工学部 情報科学科

顧問

佐々木 正文 防衛大学校 名誉教授

塩見 弘 日本科学技術連盟 参与

額田 啓三 元 日東電工(株) 技師長

眞壁 肇 東京工業大学 名誉教授

三根 久 京都大学 名誉教授

仁田 周一 東京農工大学 名誉教授

堀籠 教夫 東京商船大学 名誉教授

益田 昭彦 帝京科学大学 客員教授

(所属は2011年3月20日現在)

参加申込方法

「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記宛にFAX・郵送にてお申し込みください。また、E-mail、ホームページからのお申し込みも可能です。

「開催通知」「参加券」「請求書」は、開催1ヶ月前頃からご送付致します。参加費は、請求書発行後2ヶ月以内に、請求書に記載してある銀行口座へお振り込みください。

参加費 (税込)

一般	39,900円
日科技連賛助会員 (後援・協賛学会会員)	37,800円
学生 (学生割引)	5,250円
共同執筆者 (発表1件につきお一人)	18,900円
2011年度RQ研究会・R-Map実践研究会・SQIP研究会会員	18,900円
JCRE登録者	18,900円

*参加費は、当日欠席されてもお返し致しかねますので、ご了承ください。

*参加者以外、報文集は配付いたしません。また、報文集のみの頒布はいたしませんので、ご了承ください。

参加申込先

財団法人日本科学技術連盟

広報企画室 セミナー受付

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11
TEL : 03-5379-1233 FAX : 03-3225-1814
e-mail : regist@juse.or.jp

シンポジウム内容に関する問合せ先

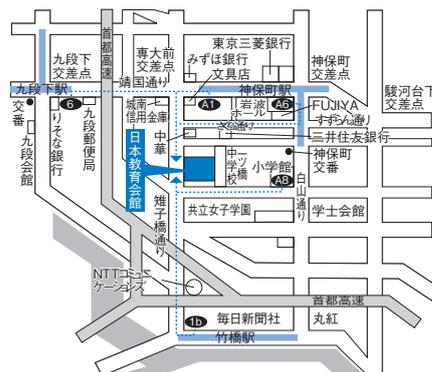
財団法人日本科学技術連盟

教育推進部第二課 41R&MS担当

TEL : 03-5378-9850 FAX : 03-5378-9842
e-mail : re-group@juse.or.jp

会場案内

日本教育会館 東京都千代田区一ツ橋2-6-2
道案内専用電話 : 03-3230-2833



- 東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 (A1出口) 徒歩約3分
- 地下鉄都営三田線「神保町」駅下車 (A8出口) 徒歩約5分
- 東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 (北の丸公園側出口) 徒歩約5分
- JR総武線「水道橋」駅下車 (西口出口) 徒歩15分

第41回 信頼性・保全性シンポジウム 参加申込書

●参加者 ※参加区分を必ずご記入ください。

FAX : 03-3225-1814

記入不要	参加者名 (ふりがな)	所属事業所・部課・役職・E-mail
		所属・役職 :
参加区分	<input type="checkbox"/> 一般 会員 (<input type="checkbox"/> 日科技連 <input type="checkbox"/> 後援 <input type="checkbox"/> 協賛) <input type="checkbox"/> 共同執筆者 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 研究会会員 <input type="checkbox"/> JCRE	E-mail :
		所属・役職 :
参加区分	<input type="checkbox"/> 一般 会員 (<input type="checkbox"/> 日科技連 <input type="checkbox"/> 後援 <input type="checkbox"/> 協賛) <input type="checkbox"/> 共同執筆者 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 研究会会員 <input type="checkbox"/> JCRE	E-mail :

●連絡担当者 (お申込み受理後「開催通知」「参加券・請求書」等をお送りする方)

会社名		事業所	
所属・役職		担当者	
所在地	〒	電話	
E-mail		FAX	
後援・協賛団体の名称		会員番号	

参加費	1. 一般	39,900円	×	名	円
	2. 日科技連賛助会員 (後援・協賛学会会員)	37,800円	×	名	円
	3. 学生 (学生割引)	5,250円	×	名	円
	4. 共同執筆者 (発表報文No. _____) ・発表1件につきお一人	18,900円	×	名	円
	5. 2011年度RQ研究会・R-Map実践研究会・SQIP研究会会員	18,900円	×	名	円
	6. JCRE登録者 (登録No. _____)	18,900円	×	名	円
	合計			名	円

*お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送り致しますので、請求書発行後2ヶ月以内にお支払いください。
*ご記入いただきました企業・組織及び個人情報に関しましては、参加申込受付処理及び事業運営のために、委員及び事務局が使用致します。